

## お祝いの言葉

北海道支部の設立 50 周年記念を心からお慶び申し上げます。社団法人日本分析化学会の 7 つの支部の一つとして、現在までに計 7 回の年会、また、やはり計 7 回の分析化学討論会に加えて、トレースアナリシス国際シンポジウム (ITAS '94) を担当されるなど、北海道支部は本学会活動の重要な一翼を担って来て下さいました。また、種々の活動のなかでも、貴支部設立 10 周年記念の 1966 年以来、毎年欠かさず「氷雪セミナー」を開催されてこられたことも広く知られていることとございます。この機会に、貴支部の活発なご活動に対して深い敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

自分も北海道大学の客員教授を務めておりました折には、年間を通じて頻りに札幌を訪問し、また、第 44 回年会の際にも北海道支部に大変にお世話になりました。空を流れる高緯度特有の雲も美しく、自然に恵まれた学問に相応しい環境は忘れられません。

さて、日本分析化学会は本年、近畿支部並びに大阪大学の御尽力をもちまして第 55 回の年会を開催し、また、5 年に一度の名誉会員推戴式を挙げて戴きました。その機会に、多くの先輩の方々が一堂にお集まり下さいましたが、諸先生のお話を伺いながら本会の歴史の重さをつくづくと感じました。省みますと、分析の基本である化学分析から始まり、物理原理を応用した多くの機器分析にも本学会は関係して参りました。諸先輩の分析化学への情熱は、分析化学の礎を揺るぎないものとして完成させ、その確固たる礎の下に種々の応用分野が発展致しました。

例えば、医療分析などもその典型例でありましょう。私達が普段お世話になっている健康診断でも、血液自動分析計は欠かせません。血液の自動分析では分光計測や電極反応を用いた分析法が、その心臓部を担っております。また、データの精度管理には分析化学の知識が欠かせません。医療分析は、既に分析化学を巢立って独立した新分野を形成しております。多くの最先端の科学技術分野でも、分析化学から巢立った分析方法論が活躍しています。

まさに、分析化学は、「計る」ことを必要とする多くの新分野のインキュベータ（孵卵器）の役目を果たしていると感じます。分析化学は一見地味かもしれませんが、本当に科学・技術そして産業に多大な貢献をしている事実があると思います。このような分析化学に誇りを感じつつ、さらなる発展に向けて邁進されることを心から祈念しております。北海道支部設立 50 周年、誠におめでとうございます。

社団法人 日本分析化学会会長  
小泉 英明